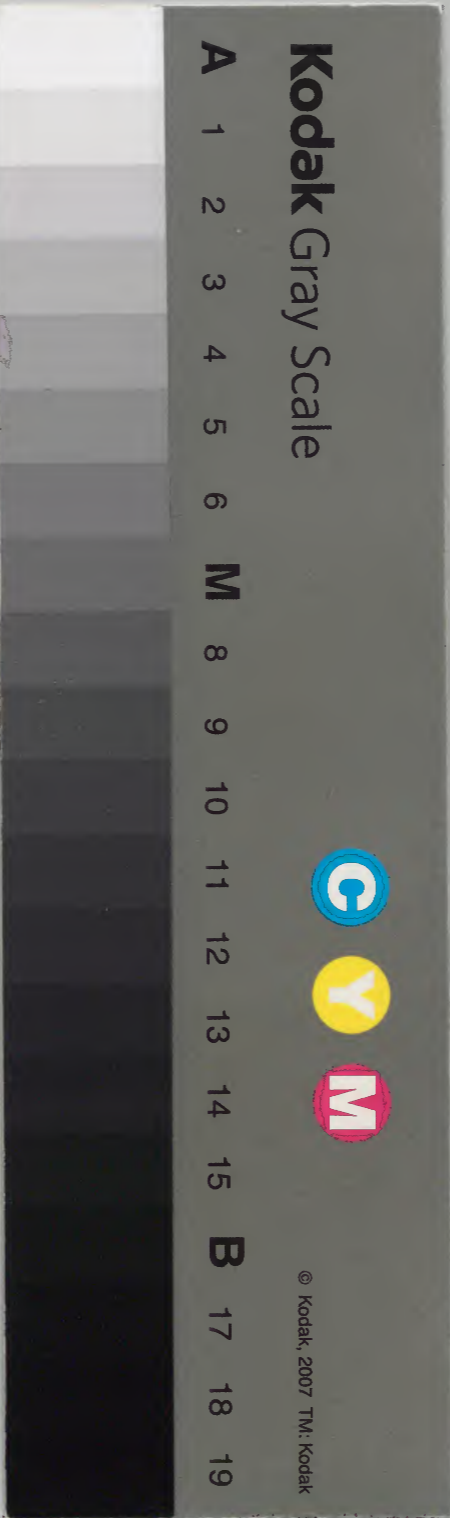


夏山雜談

番外言册

庫	文	閣	內
二	二	八	和
函	函	一	書
六	五	一	類
架	冊	號	類

內閣文庫	
番號	和 18781
冊數	5 (1)
函號	212 55



復山雜談起

淺草文庫

難波

過シ元文戌午ノ年ノ春鶴ノ林ニ薪ヲ集メ日難波ノ

御寺ノ御法ノ舞樂ヲ聽聞セント心ノオナシキヲニ

三人誘引テ一カリヌニ舍利ノ坊ニ知人アリテカクト

イヒイレケレハヨクソヤ此方トテ座席ヲ一ウケテ

ヨヒイラレタリ舞樂モナカハ過シ口傍ヘヨシレハ

年ノホト八十ニモヲヨヒヌラントオホシキ老翁ノ小

童ヒトリ具シテアマタノ人中ニオシヤラレテイト

クルシケニ見エタリ何トナクイタハシクテ此方ト

一子キケレハ老翁ヨロヒテサラハユルレ給ヤトテタ

カヒニヒサヲユツリアハセテ心シツカニ聴聞シタリ老翁ノイフトレヨリタル身ノカ、ル群集ノニハヘキタリシ夏斤ハライタクオホシテヤ我トレワカキコロハヒチリキヲフテ音楽ノ席ニモレハレリ一ヨトヤ六時堂ノ前ノ鐘ノ音ハ黄鐘調ノ寂中ナレハ此比ヲモテヨロツノモノ、音ヲ此カ子ノ調子ニテアハスユトナリトキ、ヲヨヒレカハソレヲコ、ロミシタメニニカリシナリトイフロモスケニテオソロシケナレトモ物イヒ立アルニ普通ノ人トモ見エサリケレハイカナル御人ソヤイツクヨリソトイハハ翁

ノイフ我モトハ都ノモノニテ何某ノ大臣ノ御家ニ恪勤シテ名ヲ秋山、色樹トメサレ侍ホニノツカサヲモ賜リシモノナリ二十年分リサキニ身ノイト一申シテ名ヲ^{ユラ}楽^{ニロ}磨トアラタメ城南ノ鳥羽ノ庁ホトリニカクレ井テ侍リレカ子ニテ候モノハヲサキ時ヨリノ人ニアタヘテクスシノ業ヲナシテ今此^浪年ハカリサキヨリ此難波ヘクタリフ^福所ニイホリヲムスヒカタノユトク住居シテ侍ルナリソコノホトナレハ野田ノ藤見給ハシヲリハカサヲストフヲ

ヒタニハカシトイフ舞樂モイマタヲハラサレトモ七日モ
西ニカタフケハ人々イサナヒテカヘリ又老翁モトモ
ニ座^{ガガスリ}摩ノ宮ノホトリニテトモナイシ子ノ方へ
トテワカレヌ彼翁ノコトハハレシタハシク公又ナト
キカニホシクヤヨヒノハシメツカタ彼ヤトリヲタツ子
シニツエノホトハキシカトモモトメワツラヒタル
ニ竹ノカキニ斤折戸シタルトコロニ鶉殿ノ芦ノホノ
カニモヒチリキノオトスメリコニヤトオモヒ寮内
スレハ翁モヨロヒテワザトナラヌモテナシサスカニ都
方ノ人ト見エシ日比各月ハキナカラ其事オホツ

カナキ公又トモヲ多子トヒシハシメノホトハ公又
ハ何又モシリ侍ラストテイハレサリシカ其ノ千
タカイニユキシテ心ヲタテヌナカライトナリヌ
レハ公又ヲハシメテヨロツノ又ヲ打トケテ語ラ
レタリオモシロクオホエシコトノミタカリキ我モト
ヨリウミレツキニラクシテ聞又ノワスレヤスケレハ
其物語ヲフトヨロ紙ニ書シルシオキタルカ年ツモリ
テ一ノ管ニミテリイタツラニムシノ巢トナリナシモ
本意ナクテモシホクサカキアツメタレハアノ多書
トナリヌ夏山ノコトクサシケキ物カタリナレハハラ

シ古コトヲカリモ千井テ夏山雜談トハ各ツケタ
ルナリ

寛保辛酉八月上澣

夏山雜談一

○神國トハ天神七代地神五代ヨリ受傳ヘテ神統サラ
ニ疑ナク天照太神ノ御國トイフ事ナリ夫木集ニ我
國ハ天テル神ニスエナレハ日本トシモイフニツアリケ
ル續千載集ニカタフカヌハヤ日ノミ子ニ天カ下アメ
ノミミコノ國ソ我國後木尾院ノ御製ニタメレナヤ
他ノ國ニモ我國ノ神ノサツケレアニツ日ツキハ
○神祇トハ神ハ天津神祇ハ國津社ト訓ズルナリ後宇
多院ノ御製ニアニツ神國津ヤレロコヲイハヒテソ
我アレハラノクニハオサニル

○天神地祇ハ天神ハ清音地祇ハ濁音ナリ神代卷ニ
スミアキヲカナルハクビイテアモトナリサモクニアルハツ、イテツチトナリトモホリテ
清陽者薄靡而為天重濁者淹滯為地云是故ニ
天神ハスミ地祇ハニユルナリ

○天子至尊ノ靈日月星辰ノ靈ヲ天神トイフ諸臣
ノ靈山川地靈ヲ地祇トイフ假令香椎宮ハ幡宮
ハ天神天満宮東照宮ハ地祇ナリ然リトイフ何モ神
ニテ何ノ差別ハナキ又ナリ

神祇官ノ八神殿ヲ神樂岡吉田山ニ遷サレテヨリ
以來ハ彼所ヲ神祇官代ニ用井ラルナリ

中臣後ニ高津神ノ災トハ雷霆ノ災日月ノ食客
星ノ類ナリ高津鳥ノ災トハ天狗ノ類ノ災ナリ
トイヘリ

中臣ハ後ヲ行ヒ齋部ハ齋藏ヲ掌リト部ハ龜
トヲ掌ル是故ニ此三姓ヲ行ヒ又ノ姓トイフナリ

○倭姫命ノ七百歳ノ壽ヲタモク給ヒシトイフ又
ハ疑ハシキ又ナリ伊勢ニ倭姫命ノ御墓三箇所
アリ疑ハ上世齋宮ニ立給ヒシ皇女ハ代々倭姫命
ト申セシニヤトオモハル

神宮トハ伊勢ニカギリテ申ス又ナリ其外ハ加茂
神宮ナド、申スナリ

上加茂下鴨ノ社ヲ上下ノ社トハ云ハス下上ノ社ト倒ニ申スガナラヒナリ

伊勢ヤ日向ノ物語ト云諺ハ天孫降臨ノトキ天ノ鈿女ノ命猿田彦ノ命ノ問答ヨリイヒタル故也ナリト

山城國山科ニ諸羽ノ神社アリ此社ハ天ノ兒屋根ノ命天ノ太玉ノ命ノ二神ヲ祀リタル社ナリ此二神ハ皇孫ノ左右ノ扶翼トシテ輔佐シ給ヒタルニヨリ諸羽ト申シ奉ルナルヘシ

初穂トハ大嘗會ノ時稻ノ初穂ヲ神ヘ奉ララルツホクヨリ起リテ稻ニカギラズ何ニテモ神ヘ奉ルヲハツホト云ナリ三代實録ニ錢ヲ鑄ラレテ其初穂ヲ神々ヘ進ゼラレシ見エタリ

齋宮ノ皇女都カヘリ給フハ不吉ノ言又ナリ是故ニ天子御自齋王ノ額ニ櫛ヲサシ進ゼラレ都ノ方カ向キ給フナト仰ラルトナリ是ヲ別レシト云フ櫛ニテ髪ヲケヅルニアトハカヘラヌモノナリワカレト云訓モ我トカレナリ是故ニ旅ニ出テ歸ルベキ人ニ櫛ヲ馬ノハナムケニハセヌ事ナリトサハテヌ神ニタハリナシト云諺ハ鬼神ヲ敬シテ

遠クトイヘルヨリシナルベシ

○神璽トハ天子ノ御印ヲ申ナリ、方三寸ノ内印ノ事ナリ、今五位以上ノ位記ニ捺^{オキ}ル御印ナリ三種ノ神器ノ神璽トハ各別ナリ

山ノタウゲハ手^{タテ}向ノ轉訓ナリ手向ヲタウゲト訓スルハ日^{ヒムカ}高ヲヒウガトイヘルガコトシタウゲハ上リ下リノ山ノサカヒニテ國モ多クハコニテサカハバ旅行ノ人道ノホドリヲイノリテ國津神ニ手向ヲスル故ノ名ナリ道祖神ヲ手^{タテ}向ノ神トモ申スナリ萬葉集ニ祈ノ字ヲタムケトヨコ祭禮モ

タムケトヨメリ

京ノ東西南北ニ岩倉ト云所アリ遷都ノ時尤青龍右白虎前朱雀後玄武ノ四神ヲ一ツラレシ所ナリ

或云江戸台此地名ナリト

江戸ノ地名ニ目黒目白目赤目青ト云所アリ御草創ノ時慈眼大師^{坊南亮}台命ヲ奉リテ鎮護ノタメ四方ニ不動ノ像ヲ造立シ彼不動ノ目ヲ赤黒青白ノ四色ニナシ給ヒタルヨリ其地名トナリタリト或人ノイヒシ尤青龍右白虎前朱雀後玄武ノ四神ノコトナルヘシ

○麻モ又サ幣モ又サト訓ズイニシハ幣帛ヲア
サニテ製リタル故伊勢ノ後ニ大麻ト書モ此
故更ナリ

○物ノ初メシヨハント云人アリイカナル詞ニヤト思
ヒシニ神代卷ヲ見ルニ一書ノ説ニ天地初判ノ四字ヲ
アメツチハジニルト讀ナリサレバ物ノハジメテ初判
トイフ更宜ナルカナ

○神代卷ニ風雨ト云フ字ニカゼアメト假名ツケタ
ルハ文字ニツキテノ假名ナリ風雨トアリテモアメ
カゼトヨムヘシ我國ノ語ニカゼアメトハイハズアメカ

ゼト云フナリ漢字ヲ備用ラルニヨリテアメカゼニ

風雨ト連續字ヲ用ラレタリ神代卷ニカキラズ
和書ニハカル類多キ更ナリ風波モナミカゼ山
海モウミヤ一昼夜モヨルヒル夫婦モメラトナリ

攝津國西生郡曾根崎村菅神ノ社ヲ露ノ天
神トイフ又近比ハ賤キ輩ハアラヌ各ヲツケテ
イフサモアル人モ是ニナラフハ無念ナリ

山藍ハ紀伊國熊野ノ山中ニ多クアリトイヘリ
蘿ハ女蘿トモ又ハ下苔トモイヘリ俗ニ狐ノヲ
カヱトイフ山中濕地ニ生ズルモノナリ稻荷山ニ

或モ七八十年以
前マテ此社内
海雨節水涌
ルアリ是故ニ
梅雨夫神トイフ
梅雨ヲ露ト誤
ルトナリ

モ多クアリトイヘリ、

神ニ位ヲ授ケラル、ハ位田ヲ其神社ヘ附ラル、タメナ
リ、

毎年十二月晦日、東坊城家ヨリ米ニ俵北野宮へ進
ラセラル、是ヲ太宰御貢トイフヨレナリ、古キ更

ナリト聞シ

八坂瓊ノ坂ハ尺ナリ、尺ノ訓サカナリ、必尺ノ玉ニ
アラザレドモ大玉トイハンガタメナリト聞シ

中臣後天乃御蔭日乃御蔭登隱坐トハ皇居
深嚴ニシテ人ノ輒ク拜スル事ナラザルノ儀ナ

リ、穆々文王ノ意ナルヘシ

経津主神ノ祖ヲ星トシ菅公ハ梅樹ノモトニ出
現シ給ヒタリ云ハ靈異ニイハンガタメ史書ノ

ツ子ナリナンゾ星降り神トナリ、又梅樹
ニ出現ノ理アラヤ異邦ニモ申呂ハ降自岳ノ

類ナルベシ

忌言寺ヲ瓦普ト云ハ佛舎必瓦ヲモツテ

覆フ故ナリ上古ハ人家ニ瓦ヤ子ナシ崇峻紀ニ
曰元年三月百濟國献瓦博士云云

下賤ノ言ニ人ノモノイフヲホサグト云ハイヤシ

キ言葉ニアラズ、倭姫ノ命ノ世記ニ神賀告ト云
事見エタリ、或神告詞神壽詞神壽宜ノ類
皆ホサクナリ、

○往古内膳司ニ平野庭火忌火トテ三ノ金アリ各
神靈ヲ祀ラル三所ノ皇神ト云是ナリ、民家ニ七
竈神ヲ祭ルハ此餘風ナリ、俗ニ荒神ト云ハ皇神
ナリヤ、文德實錄曰、天安元年四月、有勅内膳
司忌火庭火皇神ニ授從五位下云云、

○**葦門**ニ額ヲ掲ルハ、我國中比ヨリ、異國ノ法ニ效メ
ルナリ、神社鳥居ニ額ヲカクル事ニナリ、又
リ鳥居ニ額柱ト云ハ、額ヲカク柱ナリ、後世ハ
額ヲ掲又鳥居ニ額柱ヲマウクルヤウニナリ
タリ、伊勢兩宮ノ鳥居ニ額柱ノナキハ、新儀
ヲ用井ザルトナリ、

○**葱花**輿ハ御神事行幸ノ時召サル、御輿ナリ、
葱ノ花ノ形ヲ金ニテ作り、御輿ノ上ニ付ルナリ、
葱花ハギノ花ナリ、葱ノ花ハ神事ニ用ル古例ナ
リ、葱ノ花ハ寶珠ニ似タル故ニ寶珠形ト云ヒ、又
葱寶珠ト云トナリ、
擬宝珠カ

○**石鳥居**ニ題銘及寄進ノ人名ヲ彫付ル事、近比ノ

或云神社ノ高
榎ナドモ葱
花ヲツクナリ

俗ナリ然ルベカラザル事カ止事ヲ得ズハ別ニ碑ヲ
建ベシ、

大社ニ直會^{ナラライ}。世俗ニ物ノアマリアル事ヲナホラヒト云ハ直會ナ
ルニヤ、神供ノ御飯^{ゴシ}ヲ至尊^ニ奉ルヲ直會トイヘ
リ、神社ニテモ神職ノ人神供ノアマリヲイタズ
ク事ヲモイヘリ、俗諺モ是ニヨルナルベシ、

新嘗會ハ霜月中ノ卯ノ日ナリ、是ハ今年ノ新穀ヲ
神へ供ゼラル御神事ナリ、天子モ此御神事スミ
テ以後新米ヲメスナリ、昔ハ庶人モ此御祭ノ後新
米ヲ喰ヒタルトナリ、志ノアラシム人ハ此御神事スギ
テ新米ヲ喰フベシ、

世俗ニ物ヲ儲ケ置ク事ヲシガクストイフハ、試樂^{シガク}
ト云ヌナルニヤ、加茂八幡ノ臨時ノ祭ニ試樂ト
云事アリ、是ハ神事ノ時アルベキ樂ヲ預メコ、
ロミナル、公事ナリ、俗ノ諺モ是ニヨルニヤ、

神代卷ニ安忍ヲイブリト訓ス物毎心強ク情
ナク悪事ヲスルヲイヘリ、俗ニイブリトイフハ
意違ヘリ、

穢氣アル所ヨリ来リタル書狀ナド箱ニ入ラザルハ
神事ノ時トイヘドモハツカラズトナリ、

○^{アラニギテ}青^{シラニギテ}和幣ハ麻白和幣ハ木綿^{楮ノ事}ナリニテ作りタ
ルモノナリ。

垂ル、事ヲ古語ニシテト云幣ヲシテト云モワタ
レタル故ナリ。

○^{スガ}清浄ナル事ヲ古語ニスガト云神代卷ニ到出雲
之^{清地此}清地^{乃言曰吾心}乃言曰吾心^{清清之}清清之^{此今呼此云}
練ラサル糸ヲスガト云フモ清キ故ナリ菅ヲスガト云

モ潔白ナル故ナリ。

○^{アサ}麻ト木綿^{和名}ハ神事ニ用ルモノナリ、上古ヨリ
木綿ト云ハ楮^{カガ}ノ皮ナリ、紙ニスクモノナリ、楮

ト麻トハ通用スルナリ、是故ニ神宮ニテユフダ
スキハ麻ニテスルナリ、ユフトハ近代ノモメンノ夏
ニ心得テモメンノカナニテ木綿^{ユフ}襦^{ダスキ}ヲスルハ誤
ナリ、近代ノ木綿^{モメン}ハ延暦年中崑崙人實ヲ
持来リテ參河國ニハジメテ植エ、其後絶テ久
シク文禄年中蕃國ヨリ種来リテ是ヨリ
天下ニハビコリタリトイヘリ。

清^{ニシ}ズ濁^{ニシ}ラズ出ズ入ラズト云俗諺アリ、中庸ヲ用ル
意ナリ、中臣後ニ天津金木乎本^{モト}打^ミ伐^ト代^トアル
モ志未ヲキリステ、中ヲ用ル事ナリ、過タルハ

及バザルニシカジト云事モアリ。万人事モ過不及
ノナキコソヨケレ。

往古ハ神社ハ馬ヲ献ル是ヲ神馬ト云。神馬ヲ献
ル事カノ及バサル人ハ木ニテ馬ヲ造リテ献ル
是亦及バサルモノハ馬ヲ畫テ献ル是故ニ繪馬トイ
フ。後世ハ馬ニアラズ種々ノモノヲ畫テ献ル事ニナ
リ又、此外詩歌連歌及俳諧ノ連歌ヲ奉納スルモ
亦可ナリ。遊女男娼ノ類或大黒ト淫女ノ首曳ヲ
スル躰ナトヨ畫テ掲ルヤカラモアリ。カハル事
ハ不敬ノ甚キモノナリ。摂津國生玉ノ社ノ繪馬ニ

八嶋ノ大臣ヲ伊勢ノ三郎カ熊手ニカケテ海ヨリヒ

キアグル繪アリ。大臣タル人ノ惡名ヲ繪馬ニ畫

テ掲ル事ハ斟酌スベシカハル類ヲ書カズトモ事ノ

欠タル事アルベカラズ。此外怪カ乱神ノ事ヲ畫テ

神社ニ掲ル莫ナカレ。又射人金ノ的是ヲ星ト云ヲ射揚

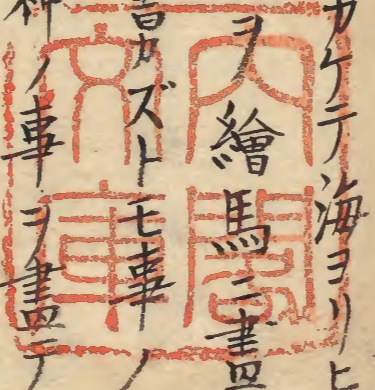
テ是ニ矢一雙ヲ添ヘテ其生土ノ神社ハ奉納スル

莫近世ノ風俗ナリ。祈願ノ人願書ニ上指ノ矢ヲ

添テ奉納スルハ武門ニ舊例アル莫ナリ。或砲術

ノ人其躰ヲ畫テカケ。劔術鎗術ノ族竹刀木刀

ヲ神社ハ掲ルモアリ。何ノ故モナク妄ニ社頭



二掲ハ其名ヲ世上ニ流布セシメンタメナルヘシ又
数学ヲスル人等術ノ難問ヲ作リテ神社ヘ掲
ル是ヲ開解スル人モ亦神社ヘカクル是等ノ人ハ
神ヲ尊敬シテ奉納スルニアラス其藝術ニ俊ト
リテ社頭ヲ借ツテ筆戦ヲナスモノナリ

○諸社ノ宮号及大明神天王権現号ハ勅許ノ号
ナリ私ニ勸請何ノ神トモ知レヌ神社ヲカク称
ズル莫ハ僻事ナリ又神職トハ大官司社務神主
祢宜祀ミヤナドナリ是亦勅許ノ職ナリ私ニカ
ク云事非ナリト

ク云事非ナリト

○赤心黒心神代卷ニ見エタリ心ハ火ニ属シ赤ニ配

キヨキコロキタキニ

ス故ニ赤心ヲ丹府トイフ丹心丹誠ノ類ナリ
黒心ハ丹心ニ對シテ惡心ヲイフ腹黒トモ云ナリ

西國邊ニテ早俗ノ諺ニ死スル莫ヲ廣嶋ヘユクト

イソクシニ

云フハ安藝國嚴嶋ハ神地ニテ穢ヲイム故ニ人死

スル時ハ其死骸ヲ斤時モオカス息々又レバ

一タ死セザルヨレニテ廣嶋ノ地ヘ渡レ彼所ニテ喪ヲ

葬シ葬ル事ナリ是故ニ死ト云々ヲイフニテ廣

嶋ヘユクトイヒナラハセシナリ是嚴嶋ノ土俗

ノ忌言ナリ然ルヲ國々ニイヒツタヘテ西國邊
ハ專カクイフ夏ニナリ又近年ハ大坂ニテモ卑
賤ノ人ハ多クカクニ云フナリ

式内ノ神式外ノ神トハ延喜神名式ニ載ラレタルヲ
式内ノ神トイフ式ニナキヲ式外ノ神トイフ
ナリ式外ノ中ニモ上古ヨリアリタル神社ニテ
モ式撰定ノ時モレタル神社モアリ古語拾遺
ニ見エタリ

九重ノ都ト至^テ箸^ニ云天子之門有九謂関門遠門郊
門城ノ門臯門庫門雉門應門路門也象天有九重

云是故ニ云ハノト云ナリ

硯ノ面ニ物ハカ、又事ナリ節ノアル楊枝モツカ
ハヌモノナリ菅家ノ御歌ニ見ル石ノオモテニモ
ノハカ、サリキ^節フ^レノ楊枝モツカハサリケリ
○異母ノ兄弟ハ互ニ向^{合ヒハラ}腹トイフナリ

○石灰ノ壇ハ清涼殿ノウチニアルナリ毎朝御神
事御送拜ナドヲ行ナハセ給フ御座ナリ御座
敷ノ中ニ石灰ニテ壇ヲ築^キ砂ヲマキアルヨシナリ
弘徽殿名目ヨキデナリユウキデントイフハワロシ
トナリ

○又リゴメト云ハ俗ニイフ納戸ノ如シ源氏花鳥餘
情ニ又リゴメハ寢殿ノ廂カベヲ又リハシ妻戸ヲシ
テ自然ノ調度ヲ置ク所ナリト見エタリ

○ハシガクシヒガクシトハ南階ノ間ニ柱ニツ立テ上ヲフ
キ出ス鳳輦ヲ東向ニスエテ左ノ腋ヨリ乘御ノ
タメナリ云入道前實條公右府ノ仰ニ階ニヤ子ノア
ルナリ御輿ヲヨセンガタメナリト

萩ノ戸ハ常ノ御所ニアリ萩ニカギラズイロク
ノ秋草ヲウエラルハナリ

宇津保柱ト云ハ殿上前ニアリ御殿ノヤ子ノ
ツミノノユキアヒテ雨水ノモル所ナキ故ニ

柱ヲ空ニシテ其中ヨリ雨水ノ落ルヤウニシタル
柱ナリ夫木集ニシノヒヲツルウツホハシラニカ
クハ樋ハモルテフ水ノクナヤナカラシ

馬道トハ禁庭ニテ人ノ通道ナリ源氏物語ニモ
見エタリ但馬道ハ馳道ノ記録書ノヨシナリ

古ヨリ禁中ニ紙燭燈籠切燈臺結燈臺以上
油火ナリヲ用ラル庭上ハ庭燎松明等ナリ今世モ禁中ハ
スベテ油火ナリ御内々ニテハ品ニヨリテ蠟燭ヲ用
ラ事モアリトナリ燭臺行燈アトウテウ抵灯等ハ近世

出衆タルモノナリト

○禁中ニテ皇太子関白ナド御参内ノ時ニシテ
ス所ヲ直廬トイフ諸官舎ニテ官人居所ヲモ
直廬トイフナリ俗ニイフ部屋ノ如シ

○大歌所ハ今様朗詠神樂催馬樂其外國々ノ
歌ヲアツメテナラウ所ナリ諸國ノ歌ヲアツメ
ラルハ國々ノ風俗ヲ知シメサシメナリ又東西
ノ二京ニ市司ヲ置カレテ高賈交易ヲ正シメ給フ
モ民ノ好惡ヲ知シメサルベキタメナリ禮記ノ王制ニ
日命大師陳詩以觀風命市納賈以觀民之所
好惡志淫好^ス辭トアルナリ

勸學院ハ藤原氏ノ学文所ナリ大学寮ノ南ニア
リタル故ニ南曹トモイフ拾芥抄ニ三條北壬
生ノ西ニアリト見エタリ其跡ハ今若狹ノ酒井家
ノ亭地トナレリ古老ノイハク勸學院荒廢ノ
後春日社猶殘レリ其傍ニ或僧草庵ヲムス
ビ^ル坊住ス寛永年中此地ヲ酒井家ニ賜ハリテ
亭宅ヲ造ラル此時ニ彼庵室ヲ四條ノ北大宮
ノ西ニウツシ院号モ勸學院トシテ春日社モ
トモニ遷シマツリテ彼院ノ鎮守ノ神トセ

シヤナリハミルニテ其ノ一ノ所ニハ

淳和院ハ源氏ノ学文所ナリ今西院^{サキ}村東ノ傍四條ノ北西大宮ノ東ニ其舊跡猶殘レリ土人は是ヲ飯山ト云ヨシナリ

○武者所ハ院ノ御所ニアリ此所ニ候ズル侍ヲ武者ト云遠藤武者近藤武者安藤武者ナト古^キ物語ノ書ニ見エタルハ是ナリ平山武者所季重ト云モ此所ニ候ジタル侍ナリ

○女房ノサアラヒトハ其臺盤所ヲイフト源氏ノ花鳥餘情ニ見エタリ

女房ノ侍所ノ事ナリ

御侍子ハ天子ノ御腰ヲカケ給フモノナリ是ヲヒル才ニシト云今モ小朝拜ノ時六位ノ藏人殿上ノ御侍子ヲ立ルナリ是ヲ釋家ニテハイスト云ナリ

昆明池障子ハ名目コメイチナリコシメイチトイフハワロシトナリ

○障子ト云フ給ニテハリ繪ナドヲ書タルヲイフナリ賢聖ノ障子ノ類ナリ今云カラカミフスノ如シ俗ニ障子トイフハアカリ障子ノ更ナリ

百澤増鬼百澤増鬼
同ニアリ

百澤王ハ李將軍ノ妾ナリ、名目ハクノ父王ナリ、
假名讀ニハ、ハカタ王ト云ナリ、

○屏風ハ風ヲヘダツルナリ、釋名ニ障風也トア

リ、裏形ノ鳥ハ風鳥トイフテ風ヲ喰フ鳥ナリ、

本式ノ屏風ハ表ハ絹ニテハリ裏ハ織物ナリ、大

宋御屏風ソウノオビ此此外色々ナド云是ナリ、御儀式

ニ用ラル、屏風キヌバリナリ、近代蕃客来

聘ノトキ関東ニテ賜ル屏風モキヌバリナリト

聞シ、

○母屋ヲ身屋トモ書ク、本屋ト云ノ略ナリ、子

廂孫廂ナド對シタル名目ナリ、

○御殿ノシツライト云ハ室禮ナリ、

○長押ハ鴨柄ノ上又ハ間ノ下ニモアルモノナリ、高貴

ノ家ハ勿論佛寺堂ナドニ縁ト間ノ間ニ長押ヲ

作ルナリ、平人ノ家ニハ長押造ハセヌナリ、

○御廐別當ハ禁中名目抄云西園寺代々神之當

流又神之云、當流トハ三條西殿ナリ、

○宿直ヲトノ井ト訓ズ、殿居ト云ヌナリ、夜仕

ルヲ宿トイヒ、昼仕ルヲ直トイフナリ、

○宸筆ノ宸ハ宇宙ノ下ノ辰ナリ、宸筆ト

書ハ誤リナリ。

○先駈ヲ露拂ト云源氏蓬生卷ニ御先ノ露ヲ馬鞭シテハラヒツトアリ。又禁中御鞠ノ時加茂人參テ鞠ヲ蹴ハシムルヲ露拂トイフカ、リノ露ヲオトス儀ナリス。スヘテ物ノハジニリヲ露ハラヒト云ハ是等ノ故也ナリト。

○龜居トハ左右ノ足ノニビ外ヘナルヤウニ居ルナリ。是本式ノ着座ナリ。カク座スレバ足シビレス民間ノ人モ幼少ノ時ヨリナラフガヨシト。葉室殿位ハ仰ラレトナリ。

武家年中
三田口ト云
独りノ記
オトコシナ
アリ是ニテ
殿上人ナリ

天子ハ殿上人ヲ男トメサルヨシナリ。業平朝臣ハ殿上人ナレハ伊勢物語ニムカシ男トカケリムカシサル殿上人ノアリタルト云フ也ナリ。此也ラシラザレハ此物語ハ見ニシキ也ナリ。

関東幕府
近比印行
書物ニ官家
ト書タルモテ

○官家トハ天子ヲ申奉ルナリ。也物紀原曰付天子為家官。白氏文集ニ寮家ヲオホヤケトヨムナリ。公家ト云モ天子ノ御也ナリ。公家衆トイフ時ハ堂上諸家ノ也ナリ。武家トハ將軍家ノ御也ナリ。武家衆トイハ諸士ノ也ナリ。是等ハ文書ニヨリテ分別スベシ。

周世^ハ外朝ニ槐ヲ三木植テ三公其下ニ班列セシ
トナリ是故ニ我國ニテモ三公ヲ槐門トイヒ大臣
ニ任ズル者ヲ任槐^{シクシ}ト云ナリ異國ハ朝廷ニ限
ラズ諸候卿大夫モ家門ニ樹ヲ植シナリ人諸
候ハ槐卿大夫ハ枳ナリ我國神代門前ニ樹ヲ
ウエタルニヤ天雅彦ノ門ノニ海神ノ門前ニ湯津
杜木^{カワラ}アリシ者神代卷ニ見エタリ

御菌固^{ハカクメ}ノ餅ハ近江國火切ノ里ヨリ貢スルヲ用
ラルナリアフミノヤ鏡ノ山ヲタテタレハカ子テ
ソ見ユル君カ千年ハ^{古今集里主}菌固ノ時此歌

ヲ吟ズルトナリ鏡餅トイフモ是故ナリト

九五^ハ尊トハ天子ヲ申奉ルナリ周易九五飛龍在
天利見大人トアル故ナリ上九大上皇ノ御夏
ナリ

朝廷^{ヲミカド}朝政等ノ朝ハ濁音ナリ朝夕ノ朝ハ清音
ナリ然レドモ日本ニ古ヨリ清^{スミ}テイヒナラシタリ
朝政ヲ直ニアサマリゴト、訓シ来レリ夫木集ニ
サハカリノアサマツリコトシケレト世々ニス
テヌハ敷嶋ノ道トヨメリ我國ニハヨミクセヨミナ
ラハシアリ是ヲ名目トイフナリ字義清濁ヲ

專ニスル時ハ日本ノ法ニ違フ者多シ、名目ニオイト
ハ学者心ヲ用井ズンバアルヘカラス。

○禁中食焼ノ女ノ名ヲ初音ハツ子トイフナリ、水無瀬氏孝卿

此等白水無
儀、宮ニテト
イヘリ

卿俳諧ノ癸句ニホト、キスハツ子モイソケ御幸
ナリ。

陽明御家ト
云ハ近衛殿
ナリ

七月七日陽明ノ御家ヨリ草花ヲ献セラル其御
使ハ女ナリ、名ヲ句ニホヒトイフ人ハ替レドモ代々其
名ハカハラズ。

東均或ハ
御家御多
献ラレテ
ナリ

端午ニ菖蒲ノ御輿ヲ昔ハ六府左右 近衛 左右 兵衛

ヨリ調進セシ、夏古記ニ見エタリ、近代ハ東坊城家
ヨリ献セラル故アル、夏ナラシカシ。

瀧口ニ候ズル侍ヲ瀧口ト云、競瀧口ナドライフ是

ナリ、院中ニ候ズルヲ下北面ト云、東宮ニ候ズル
ヲ帶刀トイフ。

帶刀先生トハ帶刀ノ長オサナリ

丁ハヨホト訓ス下部シモベノ者ノ夏ナリ、使丁仕丁

ノ類ナリ、火丁ト云フハ一隊ノ飯ヲカシクモノナリ、

俗ニイフ食焼ナリ、又庖シヤノ下部ヲ庖丁トイフ

是ガ魚類ヲキルカヲ庖丁刀ト云フヲ俗ニハ庖丁

トノミイヘリ、又魚鳥ヲ料理スル夏ヲモ古ク

ヨリ庖丁トイフ古キ物語ノ書ニ見ヘタリ

○内ノ昇殿ヲ聽リタル人殿上人ト云ハ院ノ御所又雲客ト云

其外女院中宮春宮へ參リテモ昇殿スル事理運

ナリ院御所以下ニテ昇殿ヲ元サレタルハ其所

バカリノ殿上人ニテ禁中ニオイトハ地下ナリ

○院中中宮春宮等ノ殿上人ヲ簡衆トイフ殿

上ノ御簡ニツク故ナリト

○侍トイフハ多クハ五位六位ナリ切ヨリテ四位ニ

モナルナリ諸大夫ヨリ一等下リテ下劣ノ人ハアラ

ザルナリ今ノ世俗ニ大小ノカヲサヘ帶スレバ侍トイ

フハ古法ニハアラザルナリ

十二月晦日水無瀬家ヨリワフシヘニテ作り

新法トイフ
灰方ある等
いづれを此
わらふまじ
と云

タル簾ハキヲニツ禁裏へ献ゼラル元朝御殿ノ御

簾ハキ初ノ料ナリト正月六日ハ若菜ヲ献リ七

月七日ハ草花ヲ献セララル各フルキ夏ナリト

イヘリ

長ノ御簾
ニカハス第一
者ニ返ルト

大樹歳旦ノ御書初三番二番トイフ文子ヲ

カシメ給フ此御書初二枚京都へ来リ祇園

會ノ山鉾前後ノ電ニ用井ラルナリ是ヲ取

當リタルハ一番二番ニ渡ルナリ會式スミニテ

右ノ御書勅ヲ諸司代へ返上スルナリ。室町家ノ時ヨリ始リタル事ナリ。

室町將軍家
侍物ノ大カ
借用ニラズ
お仕ふる記
三七足エタリ

八朔ニ禁中へ大樹ヨリ御馬御太刀ヲ進ゼラル。此時ノ御太刀ハ禁裏ノ御物ヲ借用井ラレ其次日御太刀代トシテ鳥目ヲ納ラルナリ是亦室町家ノ時ヨリノ事ナリト公物ノ御太刀ヲ借用井ラル事モ古例ニテ秘藏ノ事ナリトイヘリ

木ヲ丸ク細ク削リ頭ヲキリユ形ニシテ是ヲ軸ニシテ接タル紙ヲ巻キタル着到トイヘリ今モ

禁中ニアリトナリ。往古征行ノ將ニ軍勢ノ從ヒツクヲ着到ニ名字ヲシルセシナリ。仍テ着到ニツクトイフ今ノ帳ナド、イフモノ、如シ。

鳴高トイフ事ハ公事政事ニ諸人群集シテカシニシケレバソレラシツムル事ナリ。公事根源建武年中行変ニナリダカナドイハシメテトアルハ是ナリ。

鎌倉二位禪尼ヲ世ニ尼將軍トイフハ俗説ナリ。將軍ニ補セラレタル事ナシ。

名謁ト云ハ公事政事ニ出仕スベキ人出スルヤ出

ガルヤヲシラシメタメニ人ヲ改ルヌニテ各名ヲ各乗^{ナル}
ナリ。出仕ノ人ノ名ヲ記シタル文ヲ見^ゲ参^ザトイヘリ。
高野山ニテ法事ノ時衆僧群集スルニ預^{アラカシメ}フレ
シメシタル僧ノ名ヲ高クヨビタツルナリ其人^人候^ト
答^{コタ}フ人ノ代^トリニ出タル人ハ代^ト候^ト答^{コタ}フ是ヲ見^ゲ参^ザ
ヲ取^{トル}トイフナリ。法中ニハカルヌノアル殊勝
ナリ。

御朝物^{アサギ}ハ餅糰菓子ノ類ヲ年中毎朝河端
道^{ミチ}トイフ御菓子師ヨリ調進スルトナリ。民間
ニテモ朝食^{アサゲ}ヨリ前ニ何ニテモ喰フ事ヲア
サト云ハ此餘風ナルベシ。

端午ニ菖蒲ヲ家屋ニラクハ家ノカザリニハア
ラス火災ヲ除ク術ナリ。是故ニ諒陰御表ノ
ウチトイヘドモ内裏ニラカル、タメシアリト或
記ニ見タリ。

四十七代ノ帝ハ御位ヲ廢セラレテ淡路國へ遷
リ給ヒシカバ淡路ノ廢帝^{ハイタイ}ト申奉ル。此帝^{イハレ}ノ俗ニ
廢帝天皇ト申スハ僻言ナリ。廢帝ハ謚号ニ
アラズ廢^スタル帝ナリ。廢帝トバカリ申テヨシ
或廢天白王トモ申スベシ。廢帝天皇ト申ハ重言

ナリ

三箇ノ重夏トハ御即位御襖河原ノ大掌會ナリ

三改元トハ御代始御即位革命辛酉年革令甲子年

ナリ此三度ハ定リタル夏ナリ此外臨時改元ハ

吉事賀夏凶事天變 疾疫兵 地災 革怪異ニ依ツテ其例多シ

勅旨ヲウケテ勾當内侍ヨリ書出サル文ヲ女

房奉書ト云フナリ是ヲ内侍宣トオボエタル人

モアリ僻事ナリ藏人所ヨリ出ル宣旨ニ別

當宣内侍宣ノ差別アリ委侍中群要見又

管絃トハ吹物打物等ノ揃タルヲ云ナリ文選

註ニ吹ヲ云管撫云絃

付物トハ催馬樂ニ笙篳篥ナドヲ合スル夏

ヲ云ナリ

フエトハ吹物ノ惣名ナリ笙篳篥尺八ノ類

皆フエナリ禁中ノ笛筥トイフニイロノ

吹物入事ナリト聞ケリ

胡飲酒コシユトイフベシ井シユトイフハア

トナリ

音曲ナドヲホムルニヤウノトイフハ洋々ノ

字ナルベシ論語ニ洋々手ト盈耳哉トアリ

孔子ノ樂ヲホメ給ヒシコトバナリ、

○琵琶ヲ歌ニコト、ヨミ或四ツノヲトモヨメリ堀川

後百首ニ王照君ヲヨメル歌道スカラ馬ノ上ニ

テヒクゴトノ緒コトニ玉ヲヌク涙カナ、六帖ヨ

ツノヲニオモウコ、ロヲシラヘツ、ヒキアカセ

トモレル人モナシ、

○和琴ヲ六ツノヲトモヨメリ六帖ニムツノヲノヨ

リメコトニソ香ハニホフヒクヲトメコ少女子カ袖ヤフ

レツルアツニゴトトモヨメリ衣笠内附夏クレハアツニノ

コトノアレツクニヨリカケテケリ藤ナミノ花、

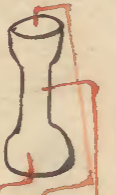
源氏ノ花鳥餘情ノ序ニアツニヲモロノノ器

ノウヘニオキムラサキヲヨロツノ色ノナカニ尊

ブトアリアツニトバカリモイフニヤ、

○琴箏トモニコト、訓ズル故ニキンノコトサウ

ノコト、イヒワクルナリ、

○鼓ノ胴ノ名所  経筒、乳ブクラ、如孤ト

云ナリ、

メツタヤタラト云俗語ハ樂ニハ多羅拍子ト

云支ノアレバ是ヨリイヒ出セシ支ナルニヤ、

舞ノ手ニ入綾トイフ支アリ綾ノ手ニメトヘ

八多羅拍子
多羅類
録ニヨリ

枕草子
むしや
いふこころ
山こころ
いふこころ
いふこころ

タルナリ取ツテカヘシオモシロクニフ又ナリト
聞シホト、キス入綾ノ声ト詠ゼシ歌モアリ

○アヤツリモカラクリモ綾ノ手ヲ取ニタトヘテ
名付タルナリアヤハ綾也漢也アヤツリヤ
トリナリツトト、五音通ルナリカラクリハ漢
操ナリ系ヲクルニタトヘタルナルヘシ

○禁色トハ制禁アリテ着用ヲユルサバル染色ナリ
織物モ亦オノツカラ禁色ナリ近世窠ニ電ノ紋
ノ表袴ヲ禁色トイヒナラハシタリ

○冠ノ纓ノタメセウハ家々ノナラヒアリニテ一様ナ
ラズトナリシカレドモ臣下ハ巾子ヨリ高クハセヌ
又ナリト聞及シナリ

○エホシノ前ヘナビキタルハ平礼後ヘナビキタルヲ
梨子打ト云ナリ

○今俗ニ侍鳥帽子トイフハ本名ハ折トイフナリ
又風折鳥帽子ヲ只折エホシトハイハス

○風折鳥帽子等ノ額ノ形ニ合ハヌ見グルシキモノ
ナリ鳥帽子師ニヒタヒノ形ヲトラスベシ遠國
ノ人ナラバ額ノ形ヲトリテツカハスベシ形ノトリ
ヤウハ□カクノゴトクナル薄キ板ヲ□カクノ

ル夏ニヤ

○武家ニオイテ小袖ノ紅裏ハ老人ナドニハ御免
ナサルナリ紫裏ノ小袖ハ大樹玄猪ノ御
祝儀ニ着御シ給フナリ此時尾張紀伊水
戸ノ三家モ御免アリテ着シ給フトナリ其
外ノ家々ハ御免ナシカ、ル制禁ヲモシラス不
頼ノ輩ハ紅裏ハ勿論紫裏ノ小袖ヲ着
シタルヲ見シ事モアリ

御免ニ
ナリ

鼠色ハ表服ノ色ナリ鶴ノ黒羽色ト各目ヲカ
テ常ニ用井ラルヨシナリカスミノコロモト云モ子

ズミイロノ事ナリ東山院崩御ノトキ中ノ院

前通茂内府ノ歳暮ノ歌ニケフトイヘト今年モ

ヤミニクシケリカスミノコロモ春ハキヌラシ

○目結ト云ハ俗ニ云フ鹿子ノ夏ナリ四目結ハ
目ヲ四ツアケシゲメ繁目結ユヒハ目ヲシゲク結ヒタルモ
ソナリ

ハフ

○襦袢ハ少兒ノフス一ナリ我國式法ノムツキ

ハフトシノ如クナルモノヨシナリムツキハムツ

ギヌナリカニトリ小紋ヲツクルトナリ今民

間ニモ少兒ノウブキヌニカニトリ小紋ヲツ

或説ニ
カニトリ小紋ハ
鶴亀ノ小紋ナリ

クルハ是故ナリ、カニトリゴモントハ寶ツクシ
ノ事ナリ、

貴人ニ裝束ヲキセ奉ルニ北ニ向ケザルヤウニ方
角ヲワキニ知ルベシ軍中ニ鎧着用ノ時モ亦
同シ、

相生青赤黄
黄白黒里
相剋青黄赤
黒黒赤赤白
白青

○論語ニ惡紫之棄朱也トアリ紫ト紅ハ父ガヒニ色ヲ
ウバレテアシク見ユルナリ、此外ノ色々モ奪ハルノ色
アリ男女ノ裝束ニイロクノ衣ヲカサヌルニ色ヲ
棄ハレヌヤウニカサヌル事衣紋者ノ故實ナリ、鎧ヲ
オトスニモ色々ノ系ヲ交テ段ガハリニスル時モ此意

得アルヘシ又立花ナトモ色々ノ花ヲ多ク多クテ
トキハ色々ヲウハシ又意得アルヘキ事ナリ、又相生
相剋ノ色々ヲワキニテハシ、

○窠ハ音ク鳥ノスナリ、天子ノ御服ノ御紋ニ
ツクル窠ハハナリ、鳳凰ノ窠ナリ、五ノ鸞ノ窠
ナリ、臣下ニ用ルナリ、今俗ニ四ツ五ツ窠ハ木瓜ノ
切ロニテ木瓜モツクワトイフトイヘリ、僻古又ナリ、鳥ハ
軒ナトニ窠ヲカケルモノナレハ帽額ノ紋ニ窠ヲ
付ルナリ、是故ニモツカウト云ナルニヤ、

○纈ハツ纈ハ絹ノ地ヲ結リテ染ルナリ、雌雄結メグシツクワ了

リテ纈ト纈トハ別ナリト延喜縫殿寮式ニ見エタリ
女中ノ裳唐衣ナドニスル者ナリ昔ハ鏡直垂ニモ
セシヤ古キ物語ニ見エタリ又目結モ今云結深カノコ
ニスルナリサレドモ後世ノモノニテ晴ダヌ又モナリ
高貴ノ女中ハ褻ノ服トイヘドモ鹿子ハ用井ラレ
又トナリ

○禁色ヲ聽リザル四位五位ノ束帶ハ堂上地下見ワ
ケガタシ路頭ニテハ召具ニテ知ラルヘシ

○狩衣モ布衣モ同物ニテ裁縫替ル者ナシ御讓位
ノ後院中ニテハジメテ狩衣ヲ召サルコト布衣始ト
云フナリ有紋ヲ狩衣トイヒ青侍ノ着スル無紋ヲ
布衣トイヒテ尊卑ヲワカツ者ノヤウニ見エタリ
華帶カハヲビ石ノ帶トイフノ石ノ方ナルヲ巡方トイヒ圓ナル
ヲ丸鞆ニルトモトイフ巡方ヲ假名ヨミニハズンバウトイ
フナリ

○石ノ帶ニ四種アリ有文巡方無文巡方有文丸鞆
無文丸鞆ナリ公古又ニヨツテ各用ル所差別アリ方
圓ヲ交テ拵ヘタルヲ巡方丸鞆通用ノ帶トク是ヲ
用ルハ頗略儀ナリ武家方ニハ公古又ニ出仕ノ者又
ナシ是故ニ通用ノ帶ヲ用ラルトナリ

標ハイナニ位ハ
今日ノ假名ナリ
俗名ニ違ナリト
ニキコハ向ニ
祝スルナリ

○馬上ノ時ハ半靴ヲハクナリ俗謡ニ馬ヨリオリテ
沓ヲ又ギトアルハ半靴ノ又ヲイヒタルヘシ

○衣服ヲ又フ古又ヲ折トモイフ源氏物語ニ見エ
タリ

○笏ニスル木ハイナヒサクラヲクナリ多ハ標ヲ
用ルナリ一位ハ極位ナレハ其訓ノキユエノ同シ
キヲ祝シテ標ヲ用ルナリ就中信濃國位山
標ヲヨシトスルナリ是亦クラ井山トイフヲ祝
スレバナリ

○扇ノカナメハ蟹目ナリ

○アコメアフギ檜アフギノ如クナルモノハ唐土ニハ
ナシトナリ唐ノ扇トイフハフナハ木ニテコレ金ニ
テミレ中ハ羅ノ類ニテハリタルモノヨシナリ大
山ノ富士ノ詩ヲ唐人ガ意得ガリシトナリ

○笏ハ板目ヲ用ルナリ滿佐目ヲ用ル事僻事
ナリ古ノ宝物ノ笏ハ皆板目ナリト云

○僧中ノ書札ノ脇付ニ玉床下ト書キタル多シ
俗人モ是ニナラフテ書クモアリ玉床ハ臣下ノ
上ニハ用カタシ

○北面始トハ御讓位ノ後院中ニ始メテ北面輩

ヲ置カル、又ヲ申スナリ、

御脱履トハ天子御位ヲ讓リ給フ、又ヲ申ス

ナリ、萬乘ノ重キ御寶位ヲ敬ヤヒタル履ヲ脱ススキ

ル、トクニ思召ノ儀ナリ、虞舜ノ故、又ナリ、

○地下ノ人常ニ禁中ニテ御座鋪ノウキル、而

上ル、又ナラズ、庭上ニテ参上スルナリ、又ト知ラ

ズ人ハ強アガリニ思ヘリ、夫御殿ト云フハ清凉殿ノ

事ナリ、清凉殿ニ殿上ト云所アリ、天子出御

アル所ナリ、此所へ参ル事ヲ聽サレタル、殿上

人トイフ、此所へ参ル、又ノナラヌヲ地下トイフ、地下

ト云ハバトテ庭上ニ居ルニモアラズ、地下ノ人ノ参

上ノ間ノアルナリ、関東ノ御使侍從以上ハ殿

上へ参上ハ朔御馬進献ノ御使ハ二條在番大

番頭ナリ、地下ノ人故ニ諸大夫間ニテ参上セ

ラルトナリ、



御即位等ノ御
祝儀ニ氏家方
ヨリ、御馬代
ノ献、此所
ノ所、長橋
者所、長橋
ナリ、長橋
者所ハ御用
ノ時、地下
ノ所ナリ、

